

3. LH-RH agonist投与中の 前立腺癌患者のホットフラッシュに対する 桂枝茯苓丸の有用性

聖隷三方原病院 泌尿器科
永江 浩史

【目的】 LH-RH analogue 投与中の前立腺癌患者にみられる Hot Flush は、15～31%の発生頻度と報告され、QOLの面から決して軽視できない副作用である。Hot Flush に対する桂枝茯苓丸の治療効果に関するわれわれの検討結果を示す。

【対象と方法】 Hot Flush 症状が強く薬物療法を希望した22例を対象とした。年齢は 74.1 ± 5.0 歳（67～85歳）、LH-RH analogue 投与期間は 28.8 ± 17.0 ヶ月（4～98ヶ月）であった。

方法：自己記入式のアンケート（顔面、上半身、手足のほてり、発汗の4項目につき各々の程度を、3点：非常に強い、2点：強い、1点：弱い、0点：なし、として表記）によりスコア化した。桂枝茯苓丸（2.5g×3/日）を原則として3ヶ月経口投与し、4項目の合計スコア（HFS）について投与前、1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後で比較した。

【結果】 桂枝茯苓丸投与前に 5.9 ± 2.2 であったHFSは、投与後1ヶ月（ 4.3 ± 2.7 ）、2ヶ月後（ 3.6 ± 2.4 ）、3ヶ月後（ 3.3 ± 2.5 ）と投与前に比し有意に低下していた。投与中止例は22例中2例（投与2ヶ月後に消化器症状＝内服中止後速やかに改善、服薬拒否）で安全性に問題のある症例はなかった。

治療後にHFSが治療前の30%以下になった症例を著明改善、30～70%となった症例を改善とした場合、6例（27.3%）が著明改善、8例（36.3%）が改善を示し、有効率は63.6%であった。その内約半数が投与3ヶ月以降も服薬の継続を希望した。

【結論】 LH-RH analogue 投与中の前立腺癌患者にみられる Hot Flush に対して桂枝茯苓丸は安全・有用であり、同症状の治療選択肢に値する。